



## 熊本地震復旧応援派遣について

～横浜市管工事協同組合（理事長・佐々木靖太氏）～

4月25日(月)、横浜市水道局から熊本地震の復旧応援として派遣要請が当組合にありました。連休前で業務多忙の折、急遽ではありましたがそれぞれ快諾していただき、第1陣として(有)スイスイ（緑支部）が4月26日(火)、第2陣として高和管設(株)（金沢支部）が4月30日(土)に出動しました。

応援派遣から帰浜した組合員から寄稿して頂きました。

### 応援派遣に出動して(1)

(有)スイスイ（緑支部）

出動日程：4月26日(火)出発～5月10日

(火)帰浜

4名編成（工作車、ダンプ）



九州熊本復興支援事業を終えて漏水修理したお客様からは「横浜から熊本まで来て、大変ありがとうございます。」と



数多く感謝の言葉を頂きました。

また、益城町の辺りを通った時は、建物が斜めになっており、建物2階部分が下になっている状態でした。

車を移動するとき、通行止めが多く現場に行くまで遠回りする事が多かったです。

震災がどれだけひどいか、復旧するま



でにどのくらいかかるか予想がつかない程でした。

震災にあわれた方の気持ちを思うと、心が痛くなり、今後、このような大震災が無い事を願います。

## 応援派遣に出動して(2)

### 高和管設 株式会社

出動日程：4月30日(土)出発～5月9日(月)帰浜

4名編成（工作車、ダンプ）

平成28年4月28日、横浜市管工事協同組合より平成28年4月14日以降発生した熊本地震で被災した地域の災害復旧工事を行う為、4月30日より出動の要請があり、快諾しました。

平成28年4月30日(金)、予定通り作業車1台、ダンプトラック（3t）1台、ミニバックホウ（0.08Mm 3級）1台、作業員4名にて高和管設(株)事務所を午前2時に出発し、陸路にて大阪市南港まで向かい同港で横浜市水道局員と合流し、カーフェリーにて別府観光港に翌朝（5



月1日）8時30分到着し、同港より再び陸路にて当社が担当する被災地域である熊本県益城町水道センターに向かい、午後3時頃の到着となりました。到着後、先発災害復旧隊（横浜市水道局員）より被災・復旧状況等の説明を受け、翌日からの作業の確認を行った後、災害復旧作業現場の被災・損傷状況の踏査を行いま





した。

復旧作業現場は、家屋等の倒壊、道路の損傷等、被害が局地的に集中している印象で、被害が激しい地域での復旧には時間を要する印象でした。調査終了後、荒尾市下井手の宿舎に向かい、午後7時30分頃到着し、翌日からの作業に備えました。

5月2日(月)より5月7日(土)まで被災地域での災害復旧作業を行いました。宿舎から復旧作業現場までは1時間30分程度かかる為、朝は宿舎を午前7時に出発し、益城町に向かい横浜市水道局員と同行し、断水市域ブロックごとへの注水を行い、目視及び音調等で漏水・破損箇所を特定し、順次修理・止水等の作業を行いました。

また、送水管の復旧に時間を要した為、配水管への十分な注水量が確保できなかった為、家屋等の倒壊、水道管の損傷が激しい地区は注水を断念し、比較的被害の少ない地区からの注水及び断水解除作業を行いました。日々の作業は午

後5時30分頃終了し、翌日の作業及び作業場所の確認を行い、午後8時頃には宿舎に戻りました。

平成28年5月8日(日)、前日までに予定されていた作業を完了したので帰路に就きました。

今回、災害復旧作業にあたり、いかに送・配水管に水を注入するかが課題となりました。管路の損傷が激しい地域はバルブを閉止しバルブの無い地域には新たにバルブを設置し注水・漏水確認作業を行い順次、給水管等の修理も行いましたが、材料等の不足があり円滑な作業が行えませんでした。地区バルブも少なく、図面・出来形等の管理に不備が多く、施工判断等、準備に時間を要しました。

道路の損傷が激しい地区等があり、大型連休と重なったこともあり、道路の渋滞が激しく移動に時間がかかりこのような事がなければ、もう少し早く広範囲に水を供給できたと思うので、今後の課題の一つとなると思いました。